

# 自由南アフリカの声

1997年5月

No. 14

Voice of Free South Africa

発行 アジア・アフリカと共に歩む会

Published by Together with Africa and Asia Association (TAAA)

## 1997年5月現在の報告と予定

- 3月、南アELETよりジェーン・ジャクソン来日
- 埼玉県立熊谷図書館で研修
- ジェーン・ジャクソンが東京と埼玉で講演
- 5月、MEIとELETへ本送付
- 6月、ケープ、キンバリー、イシナンバ、  
ピーターマリッツバーグへ本送付
- 今年度中に、移動図書館車1～2台を準備予定

## 目次

ジェーン・ジャクソンの講演 .....	2
ジェーン・ジャクソンさんを迎えて .....	5
新聞掲載の紹介 .....	6
東神戸朝鮮初中級学校校舎完成 .....	9
1996年度の決算報告 .....	9
ザンビア訪問記 .....	10



秩父地方の移動図書館を見学するジェーン

## 南アのELETのスタッフを日本に招く

# ジェーン・ジャクソンの講演

1997年3月4～12日、南アフリカのダーバンの市の教育NGOであるELETからジェーン・ジャクソンを日本に招いた。埼玉県立熊谷図書館における研修が目的であったが、忙しい日程の中で浦和市と東京都で講演をしてもらった。ELETと「歩む会」(TAAA)はこの3年間、協同で図書活動を行ってきた。

### (私の職歴)

私はELETに就職する前は、恵まれない環境にいる人たちに英語を教えてきました。どのような人たちかというと、裁縫や料理を学ぶ過疎地の女性、夜間学校の成人、教科書を持っていない高校の生徒たち、高校で満足な基礎知識を得ていない大学生、英語力の乏しい教育実習生や現職英語教師などです。彼らに英語を教えるうちに、私は教材に関する問題に直面しました。彼らが実際に生活していく上で役立つ教材がないことに気付いたのです。使っている教科書や教材は、時代遅れのものや実生活に役に立たないものばかりでした。そして、教師が抱える問題にも気付いていきました。彼らは本を読む機会がほとんどなく、英語の読解力に欠けていました。

このような経験から私は、生徒の学習の遅れを取り戻したり教師の能力を高めるためには、彼らのニーズに合ったすぐれた教材が必要だと思ふようになり、よい教材を探したり作成していくようになりました。そして、1992年にELETに就職し、教材部で教材開発に取り組むようになりました。

### (ELETの歴史)

ELETは、アパルトヘイトが生んだ教育上の不平等や不正に対処すべく、1984年に設立されました。1980年にクワズールー州(現在のクワズールーナタール州の大部分)で教育調査が行われましたがその結果はショッキングなものでした。超満員の教室、深刻な設備不足、教師たちの資格不足等。なかでも、英語教育の遅れが深刻な問題として明らかにされました。小学校5年生から英語が授業の媒体となるのにも関わらず、生徒たちは英語を使うこと、聞くことがほとんどないことが分かりました。

劣悪な学校教育を受けた人が、資格・能力不足の教師となり質の悪い授業を行う。黒人の学校ではこのような悪循環が慢性化していました。ELETは他のNGOと協力して、教師にトレーニング

を施すことでなんとかこの悪循環を断ち切ろうとしました。そして積極的に、教師たちの能力開発や教材活用の支援を行ってきました。

1984年から1993年の10年間、ELETはナタール・クワズールー州や東ケープ州などで200人の英語教師を教えました。この期間のELETの目的は、従来の授業内容に替わる新しい魅力的な授業を紹介し広めていくことでした。教材を増やしたり、クリエイティブな教授法を使って、英語教育の質を向上させようと思いました。しかし、アパルトヘイトの時代だったので、学校の校長や教育省の検査官がELETの方針に同意しない場合は、彼らと争わないように気をつけて活動しなければなりませんでした。

アパルトヘイト撤廃後、ELETと政府の関係は変わりました。ELETの目的や理想は主流のものとなり、私たちは、政府の政策実現の支援をするという関係を政府と築くようになったのです。

政府は、教育改革の必要性を認識し、数々の教育プロジェクトを打ち上げていき、プロジェクト推進にあたって専門技術を持つNGOとパートナーシップを築こうとしています。

### (ELETのプロジェクト)

ELETは、1995年以来' Thousand Schools Project' というプロジェクトを進めてまいりました。これは現職教師の研修プロジェクトで、今までに500校1000人の教師を教えました。また過疎地の学校教師を対象としたPETRA(Primary English Teachers in Rural Areas)という名のプロジェクトも行っており、今までに過疎地にある110校の約120人の教師を教えました。

ELETの活動範囲はとても広く、本や教材を配布していくのは大仕事です。TAAAが寄贈してくれた1台目の移動図書館車のことを地元の学童はボーキューバイン(ハリネズミ)と呼んでいますが、このボーキューバインは、過疎地に本や教



ELETの活動地域を示す地図の前で  
ジェーンと野田 (ELETにて)

材を配布するのに活躍してくれています。これから行う予定のプロジェクトの中にブックバス・プロジェクトというのがあります。このプロジェクトでは、TAAAから寄贈された2台目の移動図書館車を活用して、本が絶対的に不足している遠隔地の学校に本を配布していきます。

#### (南アフリカのNGOの状況)

南アフリカでは、教育改善に向けて成すべき仕事が増えています。そんななかで今までノウハウを蓄積してきたNGOが先頭に立ててできる仕事が増えています。しかし、現在南アフリカの多くのNGOは苦境に立たされています。新政府発足後、今までNGOを資金面で支えてきた海外のドナーは援助先を政府に切り替えてしまったため、資金不足に直面しています。このような苦境から脱する対策として、政府とパートナーシップを築き、政府から資金を受け取ることが考えられます。しかし、政府は未だ多くの課題を抱えておりNGOと迅速にパートナ

ーシップを築けない状態です。他の重要な解決策は、NGO同士が協力しあい、互いに持っている力量を最大限に出し合っていくことです。ELETは地元のNGOとはすでに協力してきましたし、これからも続けるつもりです。

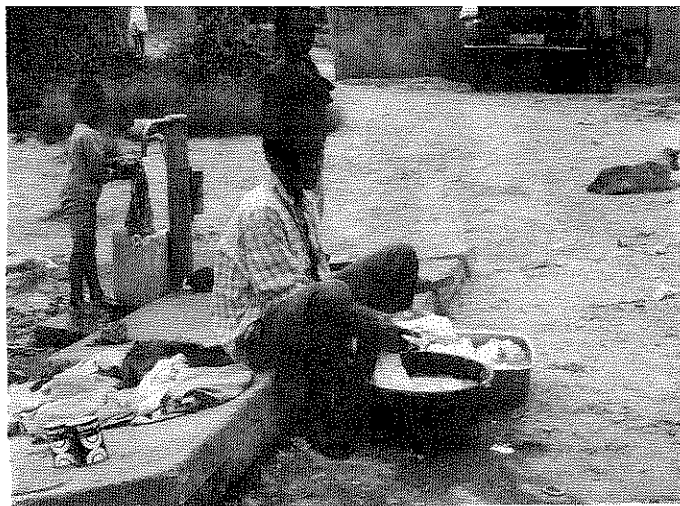
#### (TAAAとELETの関係)

最後に、ELETにとってTAAAとの協力関係がいかに大切かをお話いたします。まずTAAAは英語の本や移動図書館車といった、とても重要な物資を送ってくれます。本のない学校での気の滅入るような劣悪な学習環境を説明するのはやさしいことではありません。本は学習者にとって食料のようなものです。しかしTAAAはただ物資を送るだけではなく、私たちと直接関わってくれています。ELETを訪ねて、私たちと向き合って話し合い、私たちの活動や状況を実際に見学して理解を深めてくれています。また、TAAAのメンバーには図書館司書の方もいて、移動図書館車に関するプロフェッショナルなアドバイスを提供してくれます。さらに、



ELETにて会議

南アフリカで開発に携わる別のNGOを引き合わせてくれます。1996年11月にTAAAのメンバーがELETを訪れた際には、TAAAの別のパートナーであるMEI(Methodist Education Initiative)の主要メンバーを引き合わせてくれました。最後に、TAAAは私たちのことを日本の皆様に具体的に説明してくれています。その成果として多くの方々が本の呼びかけに応じてくれたり、郵政省が移動図書館車への資金援助をしてくださっています。今回の私の訪日も、TAAAの働きかけと埼玉県資金援助で実現しました。私はELETを代表して、皆様と分かち合うこのすばらしい機会を与えて下さったことに対し、埼玉県、TAAAそして日本の皆様にこころより感謝の意を申し上げたいと思います。



数十軒に一つの水道で洗濯をする少年  
(ダーバン近郊にて)



移動図書館車が運んだ本を  
読む生徒たち  
(ダーバンの北西部)



MEIの移動図書館ベース落成式  
(デベトン小中学校にて)

# ジェーン・ジャクソンさんを迎えて

埼玉県立熊谷図書館

北爪 健一

「アジア・アフリカと共に歩む会」の活動を知ったのは94年初夏の頃だった。同会の発行する機関紙が当館に送り付けられ、南アフリカへ送る移動図書館を募ってきたのである。「識字向上のために図書と鹿車を送る」、奉仕理念に感銘し、活動自体のスケールの大きさに目を疑い、また、鹿車を送る煩雑な手続きに果たして実現するのかと疑心した。間もなく、新聞に狭山市や松伏町の移動図書館が送られた記事が載り、「歩む会」の実行力に感心させられた。

95年10月と記憶する。「歩む会」の会員である浦和図書館の同僚、古我氏から「来年、移動図書館の運営研究のため、南アフリカから研究生を受け入れて」との橋渡しがあり

11月には代表の野田氏が依頼に来館された。広域な奉仕区域、図書の一括貸出しなど機動性や簡潔で柔軟な貸出方法の研修ができるのは、県立の得意とするところであり、当館を研修箇所を選んだのはうなずけた。研修の受け入れについては、取り立てた障害もなく2日間の研修プログラムを添えて承諾した。しかし、受け入れ側として全く不安がない訳でもなかった。通役付きとはいえ、私をふくめた職員には英語力が気掛かりとなり、コミュニケーション不足から研修成果が薄れるのではとの心配が残った。

来日は、計画より半年遅れの97年3月となった。ジェーンの日本における行程を事前に渡された。3月4日から12日のうち、公式行事の多さは然ること、「歩む会」が研修受け入れの経費節約に苦慮していることが伺える。全行程の半分4泊が代表宅の宿泊であり、機関紙・ニュースレターでは「財政的理由では、移動図書館活動は遅らせない」「ニュースレター必要ない人には送付中止」と書かれ活動実現に向けた会員の信念と誠実感があちこちに伺える。幸いジェーン・ジャクソンが熊谷図書館を訪れ、帰るまで同行できたその日程を示し、報告としたい。

3/6 (木)

- 8:30 ジェーンと浅見氏が熊谷図書館へ到着。島田氏、古我氏も到着。職員紹介と移動図書館の概要と2日間の説明
  - 9:20 先発した移動図書館を追う形で駐車場・金沢小学校へ向かう。
  - 10:40 金沢小学校へ到着するが遅れたため貸出の状況は視察できない。
  - 11:00 駐車場・カーサミナノを視察、朝日新聞の取材を受ける。
  - 13:00 駐車場・皆野町役場で実習を交えて視察、役場庁舎も見学。
  - 14:30 駐車場・三沢小学校で実習を交えて視察。
- 宿泊・小鹿野山荘 ジェーン・職員3名・メンバー3名。

3/7 (金) 熊谷図書館にて研究・協議のため移動図書館とは別行動。

- 10:00 秩父まつり会館を見学。
- 13:00 熊谷図書館へ到着。
- 15:00 質疑、意見交換、感想、館内見学。  
ジェーンと「歩む会」メンバー3名は熊谷図書館を後にする。

初日は、関係職員の紹介と英訳した貸出マニュアルの説明、2日目は、わが国の図書館事情等をペーパーで説明。他課の職員による徹夜での作文、また、通訳など多くの職員の持てる力を使った。

近年、『生涯一学習、一ボランティア』と唄い、その実践に行政が音頭を取ってきた。「歩む会」の図書梱包にお邪魔した限り、メンバーに公務員が見当らない。何故、音頭だけで、実践者が少ないのだろう。今度、研修地で熊谷図書館へほこ先を向けられたのが発端となりNGO活動の一端に関わった。突発だからボランティア活動と云えるものではないが、沢山の職員が関わった。「歩む会」の大志には及ばないが、その呼び掛け「労働力の協力」に共鳴させられた。また、メンバーの多くが、ボランティアを意識させなく、自然体で取り組んでいることに脱帽した。



朝日新聞(埼玉版)

# 黒人居住区の子に本届けたい

南アフリカの黒人居住区の教育発展のために活動している現地のNGO(非政府組織)団体「ELECT(英語教育協会)」のジェーン・ジャクソンさん(四七)

## 熊谷図書館

が六、七の両日、熊谷市の県立熊谷図書館で移動図書館車の研修をした。本不足の南アで、効率的利用法を広めてもらおうと、与野市のNGO「アジア・アフリカと共に歩む会」(与野市、野田千香子代表)が橋渡した。

## 南アNGOの女性 移動図書館車研修

「歩む会」は、アパルトヘイト(人種隔離)政策後の黒人教育を援助しようと、十萬冊以上の英字図書や中古図書館車四台を贈ってきた。ELECTはうち二台を所有し、拠点地のターバンから半径百\*以内の小学校や集会所に本や教材を運んできた。今後は定期的に回収し、別の学校や集会所に巡回していく方式にしたいと

いう。秩父郡皆野町の身体障害者療養施設「カーサ・ミナノ」などに同行したジェーンさんは、図書館職員に

「本は無くならないか」「クエストに依る方法は」と質問していた。ジェーンさんは「日本で学んだことを生かし、半径四百\*に本を届けるように活動を広げたい」と話していた。

八日午後二時から浦和市の県労働会館、十日午後七時から東京都新宿区の都中央労働会館で、「南アNGOの現場から」と題したジェーンさんの講演と活動報告会がある。参加費五百円。問い合わせは野田さん(048・8832・8827)へ。



移動図書館車の利用者の話を聞くジェーン・ジャクソンさん(左)秩父郡皆野町の身体障害者療養施設「カーサ・ミナノ」で

# 南アに英語の本とバスを送って

## NGOが来日 現地の教育事情を報告

南アフリカで英語教育の普及を進めるNGO(非政府組織)のメンバーがこのほど来日し、埼玉県移動図書館の運営などを学んだ。英語の古本と移動図書館バスを同国に送っている日本のNGOの招きに応じて、現地の教育についての報告も開催。「遠く離れた国の同年代の子もまた、本を通じて新しい情報や知識を送って」と呼びかけた。

(中田 美和子)



移動図書館が運んできた本をうれしそうに広げる小学生たち＝南アフリカ・ダーバン郊外の小学校で、「歩む会」提供

来日したのは、南アフリカで英語教育に携わるNGO「ELLEIT」のジェーン・シャクソンさん。ELLEITは、教材作りや先生への教育を行うほか、バスに教材と英語の古本をのせ、遠隔地の学校を回っている。この活動をより有効に行うために、埼玉県立熊谷図書館が運営する移動図書館に同乗、へき地の小学校などを回った。本の貸し出し方法などは違うが、「絵巻物や紙芝居は子どもに本への興味をもたせるいい方法、私たちの活動にも取り入れたい」。

ジェーンさん、さらに深刻

南アフリカは長い間人種差別が続いてきたが、一九九四年に黒人も参加した選挙で新しい政府が成立した。英語は公用語の一つで、小学五年生から授業も英語で行う学校が多い。就学率はかなり上がってきたが、「英語の水準はまだ低い。単純な構文は書けても、少し長い文になると文法のまちがいが目立つ」と

## 低い語学水準、少ない情報源が悩み 移動図書館を心待ちに 日本のグループ今後も支援

いる子どもたちは多く、バスがやってくるのを列を作って待っているときもあるという。今回ジェーンさんを招いた日本のNGO「アツア」

「遠く離れた国で同年代の子が、みなさんと同じようにスポーツや科学やファッションに興味を持っています。でも彼らには情報を手に入れる手段がない。ぜひ英語の本を送ってほしい」とジェーンさんは話している。



南アフリカの教育状況やELLEITの活動について講演するジェーンさん。東京都千代田区の中央労働会館で

本の送付については「アツア・アフリカと共に歩む会」まで、〒338埼玉県与野市大戸五ノ一七〇一 野田千香子方 〇48・8822・8271

南アフリカのメソジスト教会の新聞Demension March/April 1997より

# Mobile library base opened in Daveyton

By Dave Bentley  
Chairman

## METHODIST EDUCATION INITIATIVE

The Methodist Education Institute (MEI) was founded in 1992, to assist the education needs of the old DET system. In time it has evolved as a circuit ministry of the Benoni Circuit of the Methodist Church, consisting of members of various societies in Benoni who aim to uplift education standards.

In 1993 we received a letter from a volunteer group in Japan called the Together with Africa and Asia Association (TAAA) who had been alerted to the fact that books were urgently needed by school children in South Africa. They had collected second-hand English books and were looking to distribute them. We responded eagerly and the

first batch of one ton of books arrived by post. Further batches followed which we sorted and donated to 40 schools in Daveyton and Erwatwa.

After operating like this for two years and distributing 20 000 books, we realised the desperate need for a library.

This resulted in the idea of running a mobile library to the schools in the area, the advantages being that fewer books could be used to serve more people, all books would be available to all pupils and libraries did not need to be built at each school.

We discussed this with the TAAA who responded enthusiastically with a mobile library, which arrived by ship from



Opening the Base Library: Dave Bentley, Chairperson of Methodist Education Institute and Chikako Noda, Chairperson of TAAA.

Japan. In order to operate the mobile library we needed a base from which it could operate as well as a place for storing spare books.

A plan was drawn up and the funds for this building (R120 000) were generously donated by the Japanese Ministry of Posts and Telecommunications who also granted funds for operating costs.

This base has now been built and was officially opened on 18 November at Daveyton Primary School by the chairperson of TAAA, Chikako Noda.

This project is being run by MEI in conjunction with the Gauteng Department of Education,

who are to pay for a librarian for the mobile library.

It is hoped to collect donations of second-hand books throughout the year to supplement the 20 000 books we have at present.

In the long term, we

hope to build two more base libraries, and to operate a different mobile library to each type of school.

Through this project we are spreading the gospel by showing people that the church cares and that Jesus Christ does make a difference in the lives of the needy.

We have also discovered God's wonderful providence in rewarding our willingness. It is only when we step out in faith and really believe that, if it's God's Will, then He will provide, and that we discover just how much a few caring Methodists can do to make a real difference in the world.

We hope that this project will prove to be a pilot project for many similar ventures by churches throughout South Africa to get out there and make a difference. ■



The library being inspected by teachers of Daveyton Primary. Far left is Elphas Dube, Principal of Daveyton Primary and MEI member.



Dave Bentley with Sadao Koga, Japanese Mobile Librarian and TAAA member, Chikako Noda, Chairperson TAAA and Mrs Yuko Kuga, TAAA member.

## 南アフリカ直輸入

### ルイボステイ—販売のお知らせ

南ア産のこのお茶は、ミネラルを多く含み、老化を促す活性酸素を排除する作用があります。紅茶、コーヒー代わりにお楽しみ下さい。ティーパック1袋でカップ3倍分。

「ルイボステイ—」1箱80パック入り  
1箱2,000円(送料・税金込み)

- ・注文は5箱以上でお願いいたします。
- ・氏名、電話、住所を書いてFaxかハガキで会までお申し込み下さい。
- ・ご注文後、お茶と一緒に振込み用紙を送りますので、会宛てにお振込み下さい。
- ・輸入元の ご好意で利益の一部を会の活動費に寄付していただいています。





# 東神戸朝鮮初中級学校新校舎完成おめでとうございます。

阪神・淡路大震災から2年以上もの歳月が過ぎました。

以前、皆様に義援金を呼び掛けた2校の外国人学校の様子ですが、一部破損の中華同文学校は大分前に復旧を終えたということでした。そして全壊の東神戸朝鮮初中級学校は、今年3月2日新校舎が完成し、「竣工式」が盛大に行なわれたということです。

この2年の間にTAAAから3回訪問し、また白校長もTAAAを訪ねて下さいました。竣工式に出席することができませんでしたが、紙上を借りて、お祝いを言いたいと思います。

両校の皆様、本当におめでとうございます。そして、ご支援(両校へ計126万3877円)ご協力いただいた皆様にも厚く御礼を申し上げます。

矢野明海

## 1996年度の決算報告

1996年度は、郵政省のボランティア貯金の配分金と埼玉県国際交流協会の助成金を貰い受け、また皆様からの寄付金もいただき、順調に活動が進んできました。これも皆様の熱心なご支援によるものと深く感謝しております。

平成8年度(平成8年4月~平成9年3月)「アジア・アフリカと共に歩む会」決算書

### 収入の部

寄付金	2,785,373
物品販売	98,833
原稿料など	56,240
郵政省配分金	4,958,000
埼玉県国際交流協会	250,000
利息	4,323
前年度繰越金	2,137,325

個人・団体からの寄付  
ルイボステイ・書籍の販売  
NHK出演、ガールスカウト講演、時事通信

郵便局、銀行  
平成7年度より

計 10,290,094

### 支出の部

輸送費	436,971
通信費	362,841
交通費	31,269
講演費	67,640
会議費	10,460
接待費	9,890
事務費	153,885
図書館車諸経費	4,071,644
南アスタッフ研修費	344,774
現地視察費	1,232,571
雑費	56,569

英語の本の送料  
電話、Fax、Fax機、切手、電話料  
講師電車賃、駐車代、ガソリン代  
講師謝礼、会場使用料  
打ち合せ茶菓代、場所代  
講師食事、茶菓代  
コピー用紙、ビデオ、写真代、封筒代等  
南アスタッフの日本での研修費と旅費  
新聞代、他団体への寄付、振込み手数料

計 6,778,514

差引残高 3,511,580

平成9年度へ繰越

上記の通り報告いたします。

平成9年3月25日

会計

吉田妍子

## 私のザンビア訪問記

久我祐子

4月の中旬、思い切ってザンビア共和国に行ってみた。ザンビアは南部アフリカに位置し、周り8ヵ国にも囲まれている内陸国だ。外貨獲得の90%以上を銅をはじめとする鉱山資源に頼ってきたこの国は、目下経済の自由化・民営化のまっただ中にある。ザンビアに一度は行ってみたい、そんな漠然とした目的で来た私のようなボーとした訪問者は、到着するやいなや首都ルサカのフツフツとしたエネルギーにはただただ圧倒されてしまう。ルサカの大通りにはやたら物売りが多い。野菜、電池、カセットテープ、下着、椅子、生きているニワトリなど、道で買えないものはないくらい。物売りたちはみな商魂逞しく、一度ねらった獲物はにがさないぞという態度で売ってくる。

いかにもがさつな男たちがきれいな花束や女性の下着などをあらっぽく売っている姿には思わず笑ってしまう。1992年を皮切りに国営企業の民営化が進められ多くの公務員たちが失業したそうだ。そのせいか、オフィス街にいくと、多くの男性がたむろしてダベっている。だけれど、悲壮感などなくなんだか楽しそうだ。カウ ندا前大統領は、経済政策は今ひとつだったけれど国民の教育にはかなり力を入れていたようで、ザンビアは南部アフリカで最も教育レベルの高い国の一つだ。首都ではほとんどの人が流暢な英語を話す。高等教育を受けている人たちの間では失業してしても、いろいろな戦略を練って自ら事業を起こす人たちが多いようだ。私が出会った人たちの中にも失業から立直った新入事業家たちがたくさんいた。ザンビアで感じた強烈なエネルギー。この原動力は教育なのかもしれない。



絵はELET  
製作の教材より

### お知らせ

- ◆TAAAの活動は基本的にこの数年間変わることなく続いています。すなわち、中古の英語の本と移動図書館車を南アフリカに送り、図書教育を支援していくことです。今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。
- ◆最近の作業の様子をお知らせいたします。5月18日(日)作業参加希望を申し出ている人20数名中11人(男5人、女6人)が参加。参加者の内訳を申しますと、会社員4人、学生3人、教員1人、塾教師1人、保母1人、司書1人でした。この日は、昼過ぎまで梱包等の作業をし、ケープタウン行きの箱を40個、田舎の地方へ送る小口の箱を6個作りしました。午後は総会を行いました。
- ◆作業は1~2ヵ月に1回ないし2回、行なっています。場所は池袋から20分J R埼京線の南与野です。参加希望の方はご連絡下さい。
- ◆1年に数回ですが、車(レンタルの2トントラックの場合もある)で「ウイークデイ」にインターナショナルスクールなどへ本を引取にいったりする作業もあります。この種の作業に協力できる可能性のある方は、ぜひご連絡下さい。

◆ニュースレターは会にこれまで協力して下さった方にお送りしていますが、ご不要の方は電話、Fax、ハガキなどでご一報いただければ幸いです。

自由南アフリカの声 第14号 1997年5月25日発行  
 新所 アジア・アフリカと共に歩む会  
 〒338 埼玉県与野市大戸5-17-1 野田方 Tel 048-832-8271  
 Fax 048-832-3607  
 郵便振替:「アジア・アフリカと共に歩む会」00100-4-608515  
 新人 野田千香子 編集人 程塚明子